

対人関係と言語

敬語とは、聞き手や話題となっている人物に対する敬意を表す表現である。また敬意表現とは、相手を尊重しながらうまくコミュニケーションをとるための言葉づかいである。

敬語、敬意表現自体は世界中の言語に見られる（つまり、日本語だけが特別とはいえない）。ただし日本語は、比較的敬語・敬意表現の形式が発達している言語であると言われることがある。実際、敬語の使用は私たちの日常的な言語生活（対人関係をあらわす行為）に密接に関わっている。

1. 敬語の種類

敬語の種類には様々な考え方がある。ここでは、尊敬語・謙譲語 I、謙譲語 II（丁重語）・丁寧語・美化語に分けて説明する。

1.1 尊敬語

尊敬語とは、相手側または第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるものである。

A) 尊敬の意味を含む特定の動詞を使う

(例) 言う→ ()、来る→ ()

B) 動詞に「れる」「られる」（「尊敬の助動詞」）をつける

(例) 読む→ ()、利用する→ ()

C) 「お～になる」の形を使う

(例) 話す→ ()、使う→ ()

D) 尊敬の意味を含む名詞・接頭語・接尾語をつける

(例) () 名前、() 住所、() 社、父 ()

1.2 謙譲語 I、謙譲語 II (丁重語)

謙譲語 I は、自分側から相手側または第三者に向かうものごと・行為について、その向かう先の人物を立てて述べるものを指す。謙譲語 II (丁重語) は、自分側の行為・ものごとなどを話や文章の相手に対して丁重に述べるものを指す。

A) 謙讓の意味を含む特定の動詞を使う

(例) 尋ねる→() (謙讓語 I)、電車が来ます→電車が() (謙讓語 II)

B) 「お(ご)～する」「お(ご)～いたす」「～ていただく」「お(ご)～申し上げる」などの形を使う

(例) 連絡する→()、借りる→()、

見舞う→()

(謙讓語 I)

C) 謙讓の意味を含む名詞・接頭語・接尾辞をつける

(例) 先生への()説明(謙讓語 I)、弊社、拙著(謙讓語 II)

1.3 丁寧語

丁寧語とは、話や文章の相手に対して丁寧に述べる敬語である。具体的には、「です」「ます」「ございます」などの形を使う。

(例) 言う→()、楽しい→()

1.4 美化語

美化語：自分の品位を保つために用いる言語表現。特に相手(聞き手、第三者)の存在を

前提としない。

(例) お茶、お菓子、ご飯

問：次の下線部の動作主を示し、敬語の種類が尊敬語・謙讓語のどちらになるかを答えなさい。

1. 父がよろしくと申していました。
2. 先生が本をお出しになる。
3. 先生にご予定をうかがった。
4. 彼とは、ある学会でご一緒した。

	1	2	3	4
動作主	父			
種類	尊敬			

引用文献

米田明美・藏中さやか・山上登志美 (2010) 『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』.

東京：風間書房.